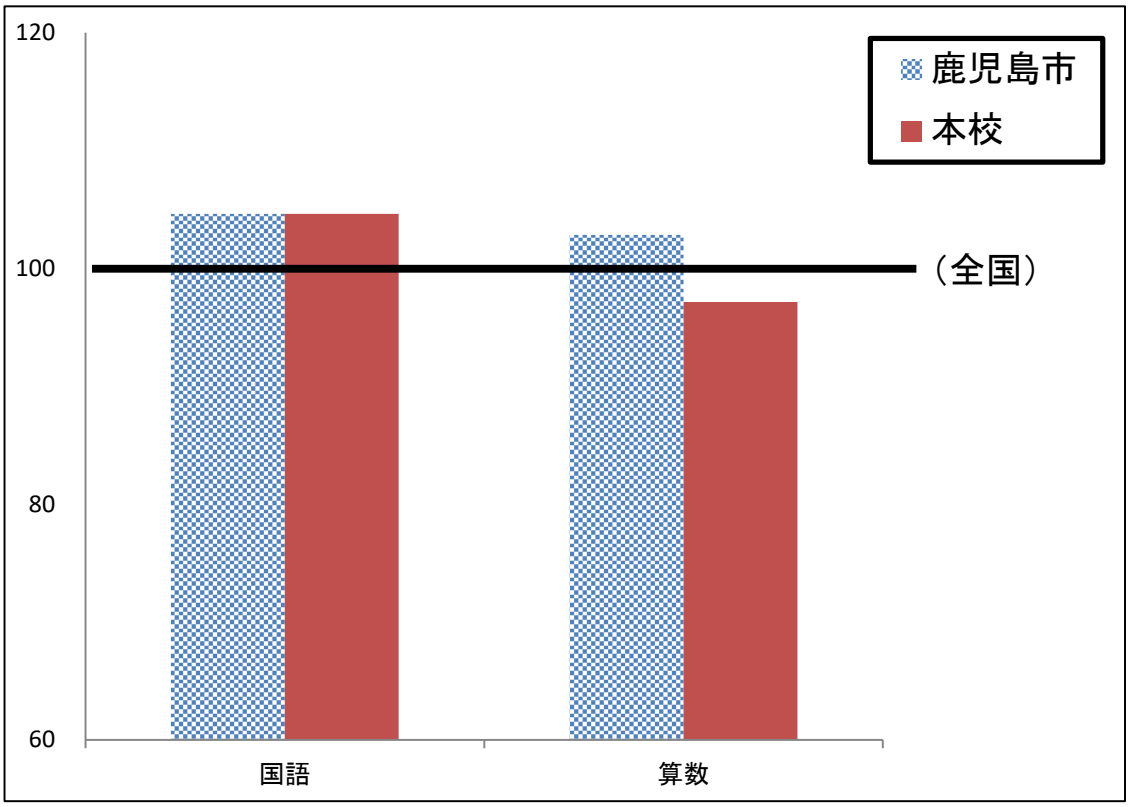
別紙

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

大龍小学校

1　自校・市・全国の平均正答率の比較

〈　全国平均正答率を100とする棒グラフ　〉



2　自校の課題に対する改善策

〈国語〉

目的に応じて，話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることに課題が見られました。スピーチの基本的な文章構成である「序論」「本論」「結論」の三段落構成について理解し，自分の伝えたい思いや目的に合わせて，事実と感想，意見とを区別しながら考えをまとめ，ワークシートや付箋紙等を用いて体験的に学べるように取り組んでいきます。また，漢字を文の中で正しく使うことにも課題が見られました。毎日の漢字練習や漢字の小テストに加え，日頃の日記や作文指導においても，履修した漢字を使って文章を作成するように全学年で指導していきます。

〈算数〉

商が1より小さくなる（整数）÷（整数）の問題で，場面から数量の関係を捉えてわり算の式に表し，計算をすることに課題が見られました。わり算の意味やわられる数とわる数の関係に着目し，図や表と関連させながら問題場面を捉えていく授業を展開したり，答えを予想してから答えを求めたりするなどの指導の工夫に取り組んでいきます。

〈全体的に〉

児童質問紙の結果から、自己有用感（自分は人の役に立つ，人からの感謝，認められたなど必要とされていると思える感覚のこと）が低い児童がいました。この自己有用感を高めることによって，自分や友達を大切にし，安心感をベースにしたよりよい人間関係が形成されます。様々な体験活動の実施や個性を尊重する言葉かけなどをより積極的に行い，一人一人の自己有用感を高め，個性の伸長を図りたいと思います。